

の生物環境が変ってしまうからである。農耕にとって最も大切な、肥沃な土壌を育んでくれるのが、アルプスからライン川に流れ込む豊かな水と、それによって育生される森や林や草原といった自然植生である事を人々は、子孫に伝えてきたのである。この周辺の工業地域は、アインドホーベンに集中していて、農業地を残して置く為の土地利用政策が行き届いている。この様に目先の利益に飛びつくような愚かな事をしないで、豊かな土地を護って行こうとするオランダ人の合理性と、5日間で300頁もの Proceedings を印刷し、最終日に出席者全員に手渡すという驚異的なビジネス感覚をもっているという点で、小さな国であり乍ら高い生活水準

を維持しているオランダという国柄の一面を知る事ができた。

ヨーロッパのシンポジウムは、私にとっては、二度目の経験であるが、出席者は、圧倒的にヨーロッパの人々が多く、ドイツ、オーストリー、ハンガリーなどお国訛りの英語で話してくれるので、日本人が変な英語で話しても許してもらえするという気楽さがあり、何と言っても、ヨーロッパの伝統ある科学の雰囲気を知る上で一番良い機会ではないかと思う。もし観光で外国旅行をなさる余裕のある方は、二年毎に開かれるこのシンポジウムに出席なさるようお勧めしたい。次回は、来年デンマークで開催される予定である。

兵庫県六甲山に自生するサギスゲ

岡 島 一 允
(阪急電鉄)

国際港として、全国に知られている神戸港、その港を見下す絶好の展望台となっている、背後にそびえ立つ六甲山(931m)は、東西50キロにも及ぶ山波を持っています。ケーブルカー、ロープウェー、ドライブウェーが通じ、ゴルフ場やホテルが建ち、開発されたとはいえ、関西の山男には、心のふる里ともいえる山で、よく登られています。

植物相においては、温帯性から寒帯性までの植物が自生し、貴重な植物が絶滅しつつある現在、四季を通じて植物観察の場所として、よく利用されています。六甲山

系の東側に、ゴロゴロ岳と呼ばれるピークがあり、標高(565.6m)のところからユニークな山名を持っています。この西側をイモリ谷とって、今から20数年前には、池があり、湿原状となり、サギソウや食虫植物他、湿原植物の豊庫でしたが、今では開発されてしまいました。今は、昔のおもかげすらありませんが、この住宅地のなかに残された小さな池に、僅かに珍しいサギスゲ

Eriophorum gracile Koch var. *coreanum* Ohwi (カヤツリグサ科) が自生しています。氷河期の残存植物として知られ、多くの植物とともに、氷河期に南下してきたサギスゲが、その後温暖になり、北へ逃げおくれた植物として、六甲山系の一部に残り、また、日本南限の自生地として、現在、高いフェンスや有棘鉄線に囲まれ、厳重に保護されています。手にとって真近に観察できないのが



写真1・2 サギスゲ



写真3・4 サギスゲの自生地

残念でありませんが、このようにしなければ、生育環境の変化や絶滅から守れない現状を見ると悲しくなっていますが、ある反面、安全とはいえなくても、安心できます。牧野新日本植物図鑑 (1977) のサギスゲの説明に、神戸六甲山とあるのはここイモリ谷のことと思います。また、紅谷進二編『兵庫県植物目録』(六月社書房、1971)によれば、“六甲山奥池(絶滅種)”となっています。花期は、6月上中旬で、この頃この池を訪れると、

てんてんと輝き、あたかも真白いサギが遊んでいるように見えます。他に、カキラン、モウセンゴケ、トキソウ、フトヒルムシロ、ヒツジグサ、ミズギボウシ、サワシロギク、ショウジョウバカマ、サワアザミ、アリノトウグサが自生し、湿原の妖精ハッチョウトンボが生息しています。これから、この小さな小さな池に自生する宝石のように光り輝くサギスゲが、理解ある人々によっていつまでも守られていくことを願っています。

野尻湖の水草 —1980年—

角野康郎

ソウギョの放流によって野尻湖の水生植物が壊滅した事情は、桜井先生の報文(27頁)に詳しいが、私は1980年7月28日に野尻湖を訪れ、水生植物の調査を行っている。この時期は、ソウギョが放流されて2年後、ようやくその除草効果が現われ始めた頃という。私は、ソウギョが放されているとはつゆも知らなかったが、どうやら壊滅直前の水生植物相を記録したことになったようだ。

その時点では、「湖底を見せぬほど」とまではゆかないが、かなりの量の水草が生育していた。優占していたのは、ヒルムシロとコカナダモである(棧橋付近)。コカナダモの侵入・繁茂が漁業に支障を与え、ソウギョ放流の原因になったのではないかと推察する。その他に、クロモ、ホザキノフサモ、セキシウモ、イトモの生育を確認した。

(20頁よりつづく)

to form particles of a mercury-sulphur compound. *J. Bryol.* 13: 101-105

———, H. Shimizu & M. Nishikawa. Elemental composition of the aquatic liverwort *Jungermannia vulcanicola* Steph. in acid streams. *Journ. Hattori Bot. Lab.* No.56: 241-248.

Shimoda, M. Macrophytic communities and their significance as indicators of water quality in two ponds in the Saijo basin, Hiroshima Prefecture, Japan. *Hikobia* 9: 1-14.

Yabe, K. & M. Numata. Ecological studies of the Mobarra-Yatsumi Marsh. Main physical and chemical factors controlling the marsh ecosystem. *Jap. J. Ecol.* 34: 173-186.

Yamasaki, S. Role of plant aeration in zonation of *Zizania latifolia* and *Pnragmites australis*. *Aquat. Bot.* 18: 287-297.

(次号につづく)